

“17歳の生命”を考える特集

自殺

勇気ある行動? 決定的敗北

■ヤングの自殺があいついでいる。自殺は勇気ある行動なのか、それともある遺書に記されたように「決定的敗北」なのか。同世代の生命をいまいっしょに考えてみようではないか――。



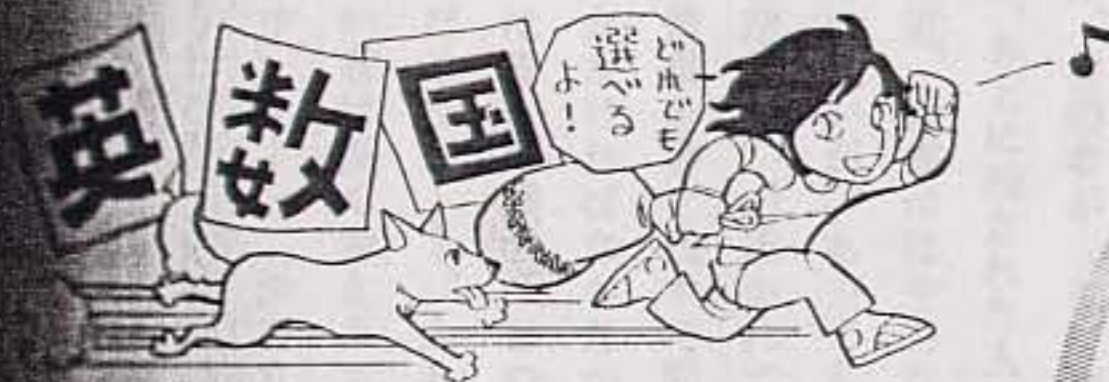
国立国会

高二時代 548 6月

自分の志望大学や希望によって 3つの科目

- ①英語・国語・数学の3科目型
- ②英語・国語の2科目型
- ③英語・数学の2科目型

英語・講座とも高2の授業内容にあっていますから、予習・復習に役立つ一石二鳥の内容です。



英協の添削 高ニクラス —内容紹介—

●問題と添削指導は…

問題は、全国高校のベテラン先生からいただいたものの中から、授業の子・復習に役立つ、また、2年後の入試への受験勉強に役立つような問題をえらんで出題します。ですから、みなさんは、まず問題をよくよんで毎回の問題を十分解答するようにしてください。みなさんが解答して送ってきた答えは英協のベテラン教官の赤ペンによって、徹底的に直されます。まちがっているところは、ていねいに直されますし、同じ解答でも、「これしたらもっとよくなる」といったところをつけかわえられ、正解へのヒントが書かれます。ていねいで、適切な添削には定評があります。こうすることによって、同じミスは、その後ぜったいしないようになるのです。



●答案

添削・校正総人員と、が記入された差値を一覧にしたもの。「解説と解法」が載っています。

クアッ
ですか
によって
業の貴重
はありま
い。「高
を解説す
してあり
スに人会
というこ



こんなにも多い、 ニートの自殺



たった一度の人生なのに
若者よ、キミたちはなぜそ
んなにも死に急ぐのか。

ビルの屋上から飛びおり自殺をした高二生
がいた。そして、旅先の旅館で首つり自殺を
はかった高二生もいた。このほかガス自殺、
鉄道自殺、入水自殺、もつとショックキングな
ところでは感電自殺、焼身自殺……と、いつ
もの年にくらべて、この春はひとときわ「死に
急ぐ若者」たちがめだつたといえよう。

自殺者の周辺の人々は、必ずいう。「なぜ
死んだのだろう」「ほんとに死ななければな
らなかつたのだろうか」などと。しかし、死
人に口なし。「なぜ自殺したか」——自殺者
の心理をつかむことは、まずもって不可能に
近い。

ば、自殺者が「なぜ死んだのか」を、ある程
度、あとに残された人々は理解できた。だが、
最近、遺書ははやらない。まったくないわけ
ではないが、あつても「バイバイ」とか「自
殺想像図」が描かれていたりする。

遺書を書き残す時間もないほど、いそいで
死ななければならなかつたのだろうか。ある
いは書いて残すほどの意味もなく死を選んだ
のだろうか——。人々はいう。「このごろの
若い者は深く考えることなく、簡単に行動へ
移す」と。つまり、すべてに衝動的だと
いうわけだ。

「死に急ぐ若者」が、物質的に恵まれた社

はじめ、ちよつとした壁によつかり、自分は
ダメなんだということになれば、簡単に死を
選びかねない」

確かに現代の若い世代は物質文明の発達し
た社会に育っている。かといって物質文明の
社会を自殺要因の一つにするならまだしも、
最大要因とするのは早急すぎるようだ。人間
の欲望は限りないものだといわれる。だとす
れば、今日の物質文明もまたじゅうぶんとは
いえぬ。裏返していえば、物資が豊富でな
かつた時代にも自殺者はかなりいたはずであ
る。

■死は逃避？ あこがれ？

とにかく、時代を問わず、いつの世でも、
若い時期には多かれ少なかれ死への願望があ
る。それは、いまのおとなたちも経験してい
ることだ。中学・高校生ともなれば進学や異
性のこと、さらに友人、勉強、容姿、家庭、
社会問題などで心の悩みがふえてくる。
小学生でもあるまいし、大きな声で泣いた
り、わめいたりはない。表面に出さずとも



つてもらいたいものだ。

おとなたちは木の切り方や泳ぎ方を知って
いる人種である。彼らが切り倒した木と、現
代の若者の前に立ちはだかる木とは、その種
類、太さも異なるだろう。しかし、参考程度
にはなるだろう。大いに聞くべきだ。

教えをこうにふさわしいおとなが周辺にい
ない——と思うかもしれない。おとなたちは
どれもこれも自分の生活にキウキウして
いるだけ——とうつるかもしれない。だが、
ひとたび教えをこえば、なかにはまともな答
えを出してくれるものもあるはずだ。

誰も教えてくれないときの解決策が一つあ
る。それは「時間」だ。がんじがらめとなつ
て悪戦苦闘を続けるものにとつて、一刻一秒
が長く感じられるだろう。しかし、その苦闘
は一年続くだろうか。二年？ 三年？ いく
らなんでも五年、十年とは絶対に続かない。
いかなる悩みも時が解決してくれる。

「17歳の生命」を考る特集 自殺

生の三分の一が自殺したいと思つたことある
と答えたという。だが、青年期における死
へのあこがれは、青年がおとなへと成長する
過程の関門である。この関門を越えなければ
いけない。死んでしまつてはいけない。
純粹な心を持つ青年期にあつては、なにご
とにおいてもいちずだ。受験勉強において
も、恋愛においても、あるいは家族関係のご
とごたにおいても……。馬車馬のように真つ
すく、わきを見ることもなく、一つのことを
考え込んでしまう。そして自らをがんじがら
めにしてしまう。

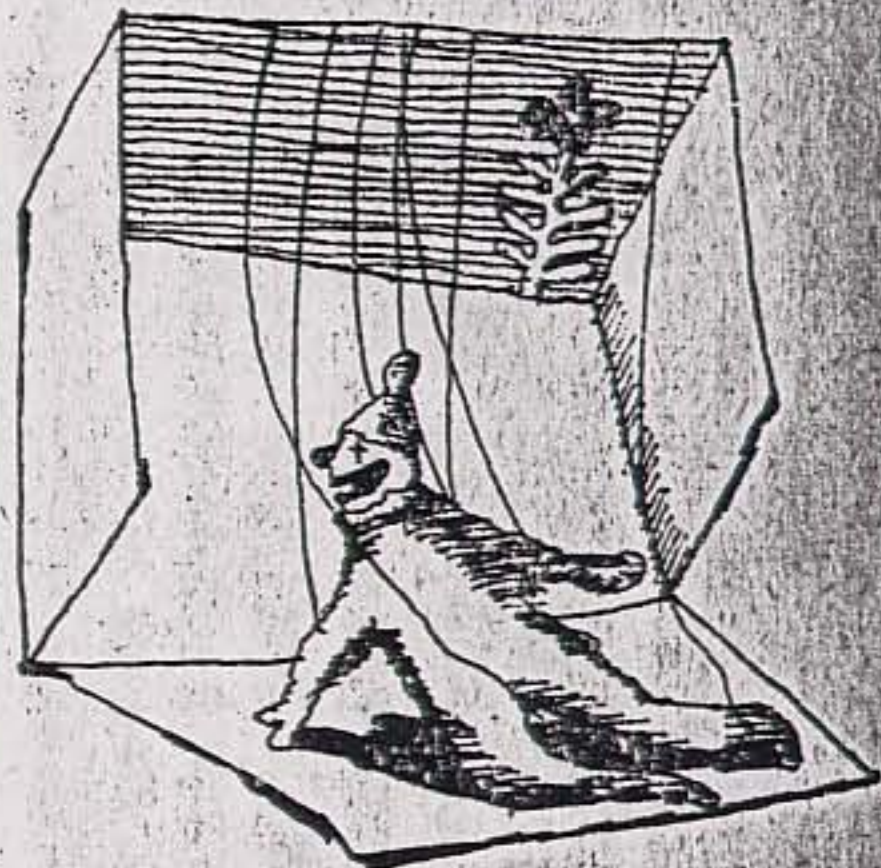
その結果、進路の前方に大木がはだかつた
り、川が横たわつていたりす
ると、その大木にぶつかるま
で、または川へ身を投げ入れ
るまで突き進んでしまう。そ
の勇気は貴重だ。が、問題は
それからさきだ。「ああ、万
事休す」とここで死んでしま
つてはいけない。どうせなら
木を切り倒すか、川を泳ぎ渡

ついでに両目をふさいでいるおおいを、思
いきつて「バツ」と取りはずしてしまふ手も
ある。すると、それまで一方の世界しか見え
なかつたものに、三百六十度の視界が開けて
くる。地球上に生をうけた自分が、いま悩ん
でいることは何か。それを考えてみると、な
んとちつぽけなことか気づくことだろう。
ともあれ、たつた一度の人生だ。どのよう
に生きようと個人の自由ではあるが、あたら
若い命を自らたつことはない。最後に十五歳
から十九歳までの自殺者の原因を警視庁のデ
ータ(四十七年度)からひろつてみよう。
一番多いのは「精神病」三一・六%、次い
で「不詳」一三・二%、三番目が「その他」
一〇・五%である。以下はより具体的な原因
で、順を追うと——「失恋」一一・八%、「家
庭親族の不和」七・九%、「えん世」七・九
%、「病氣悲観」および「進学や学業の失敗」
五・三%などのほかいくつかある。

2 死者と生者の証言

—生から死への足跡をたどる—

死を選んだ若者の本当の心はだれも知らな
そこに残された遺書や日記、生前語った
ことばの記録、周囲の人々の回想などから、
残った足跡をさぐるとすれば—



「原点に帰れ。あの青年の悲劇を見よ」

四十七年十月一日、名古屋市内で鉄道自殺をした公立高校二年・T子さん(17歳)の場合。「日ごろ、生とか、死とかについて、父親とも話してはいました。しかし、それは、あくまで、日常会話を一歩前進させた程度の話しっぷりでしたので、よもや、死につながることはないとは、ゆめにも思いませんでした」

T子さんの遺書

前「人間の肉体は枯れても、新しい生はある」とか、「肉体は靈魂の仮すまいだから、死によって、靈魂が抜け出し、抜けがらだけになった肉体は不要になるが、生は別の肉体に移り、生きつづける」とか、ときどき口にしていたという。

T子さんの部屋には、「カミュの『シジフォスの神話』をはじめ、高校生になってからつぎつぎ読破したらしい哲学書、人生論もの、文学書などがたくさんあった。

かといって、T子さんは、青白い顔をした暗いイメージの生徒であったかという、意外にも、むしろ反対の印象の強い子であったという。フォークも歌えば、クラシックも聴いたし、冗談をいってみんなを笑わせることもあった。T子さんのお母さんもこれを認め、

「弟たちが楽しんでみているテレビ番組もよく一緒に見たし、ときには争いもし、とき

「感受性のつよい人で、あるときは、自分を神さまみたいに信じ、自信をもっているかのように振舞ったかと思うと、あるときは、世のなかで、自分が一番愚劣だなーといっていることもありました。私なんかだと笑ってすますようなサイナイなことでも、T子さんは深刻に考えるようなことがしばしばありました。ああ、そういえば、パスカルだかの言葉だとかいって『この世のむなしさのわからない人間は、その人自身がむなしいのである』とかいっていました」

T子さんと親友だったクラスメートの話。遺書の中にある「あの青年の悲劇」については、死の直後は、何か有名な戯曲のなかのセリフと解釈されたが、お母さんが「日記」などから、T子さんの自殺の四日前に自殺した友人の高二の男子を指していることがわかった。

もちろん、だからといって、T子さんの自殺の動機がそれであったという証拠はなく、ましてや、三十字程度の短い遺書のなかに、



「何回も自殺したいと思いました。大切な人を失ったとき、生きることとは何かわからなくなった(今考えると、世の中を知らなかったとかみたいです)。(静岡県・女子)

「自分がいよいよ生活を求めていくことだと思

読者から 自殺をこう考える

【質問】①「あなたは自殺をしたいと思ったことがありますか。あるとしたら、いつ、どのような理由でですか」(あると答えた中から、この回答は、内容上すべて匿名とします)

○ある。しかしまだ小さかったころ。死の恐怖感がなかったとき、ぼくが死んだら、父母がどう思うだろうと、なぐさみ程度に思っただけだ。(滋賀県・男子)

○尊敬していた長兄が、心臓手術で、麻酔のまま逝ったときです(兄は医学部志望でしたから、極に白衣を入れてやるべきだったとあとで悔んでいます)。(埼玉県・女子)

○あります。理由は「人生不可解」のことばの通りです。それに自分がいやになったから。悪事を行なっている人を見ても注意ができません。こんな自分が世の中に必要なかと悩んだとき。(岡山県・男子)

○高校入試の発表の前日のこと。自分が入試に落ちた時のことを考え、周囲の人、友だちに対して恥ずかしいと思って(しかし、あとでは気持ちも落ちついた)。(広島県・女子)

○あります。自分自身の将来を考えてみて、結果的にどうだった道を選びたいかと思うこと

特集 “17歳の生命”を考へる 自殺

「丁子さんのいわんとする、十七歳の真の声」のすべての意味がこめられているとは断定できるものでもない。ただ、「あの青年の悲劇」が、死への道への誘い役であったことは事実のようだ。

お母さんは「自殺という伝染病にかかる精神状態にあったのでしよう。でも、それが、ハタからはまったくわかりませんでした。いまさらいっても仕方のないことですが、せめて、母親の私にだけは、なぜ、相談してくれなかったのか——と、それが残念です。でも、いまはもう、あの子のめい福を祈って、毎朝、毎晩、あの子の遺影の前で手を合わせるのみです」と声をおとしていた。



場合。

ノートの切れ端に、小さい字でぎっしりしたためてあった遺書には、「こう書いてあった。『お父様、お母様、私はもう生きることができません。たいした理由はないのですが、どうせ私が世のなかに生きていても、何ら役に立つわけはありませんから……。死は、三、四日前から考えていました。親不孝を許してください。』

通学が苦痛だということではありません。たしかに疲れますけど、わりと楽しいから……。高校には、矛盾していることが多数ありますが、私が死ぬのは、そんなことのためではありません。もっと、ささいなことです。なんでもないことでも、それで死ぬ人間もいるのですから。私は弱い人間なのです。一九七二年、九月七日、早朝書く。』
H君のお父さんは会社員。H君が中学二年生のとき、転勤で名古屋市内から市外へ住所が移った。このため、一時は郊外の地元中学へ転校、しばらく通学したが、「新しい学校になじめない」ということになり、もう一度と



葬式にかけつけた先生・友だちはもちろん、わずかなつてをも求めて、それをさぐったが、いまもつてその手がかりはない。

「ぼくたちもびっくりしたし、また、ぼくたちの問題でもあるので、みんなで聞きあわせだが、これという具体的な『ささいなこと』はつかめなかった」とクラスメートたち。「せめて、『ささいなこと』のちよつとしたことでもわかってくれば、息子への供養にもなるし、自分なりに納得して気持ちも落ちつくんですが……。いまはもう、私自身生きるはり合いをなくしてしまい、さびしい毎日です。街や人ごみで、高校生を見ると、ハッとすることがしばしばなんです」と、お父さんは力なく語っていた。

「17歳の生命」を考る特集 自殺

殺したのか、さっぱりわからない」ということであった。お父さんは「通学がえらいのではない」というH君の遺書に、多少気持ちは救われたが、その半面、自殺の直接の原因とみられる『ささいなこと』の、具体的な内容を知りたいと必死になった。通夜や

う。
(千葉・船橋東高・関口伸一郎)

○悲しいこと、うれしいこと、つまり喜怒哀楽が胸にジーンとくる日々を送ること。
(神奈川・鎌倉高・三平祐子)

○「生きる」ということは「生きぬく」ということ。自分の能力について、限界について、発展の可能性について、精いっぱいやってみること。
(静岡・下田北高・横山行宏)



と。
○勉強にしろ娯楽にしろ、スポーツにしても、今やっていることになんらかの価値を感じ、それがつらいことであっても、なんらかの快感と満足感をより多くもつこと。
(京都・乙訓高・中井広)

○結論的にいうと、幸せをつかむよう、楽しく暮らすよう努力することだと思ふ。
(鹿児島・中種子高・大木田敏光)

○限りなく移り変わり、一定のところには定まらないでいることこそ「生きる」ことのかかしと考えている。
(青森・大湊高・駄賃場尚子)

○父の保護下に生きていて、あまり考えない。ただいえることは、「生きる」ことを重要視していることだ。
(千葉・葉園台高・古閑志之利)

○欲を出して、なんでも好きなことをすること。
(山梨・韮崎高・長坂正彦)

○人間は必ず死ぬものであるから、個々が、せいぜい「死ぬのはいやだ」と思っただけで暮らしていくことが「生きる」ということになる。
(愛知・岡崎高・中根 誠)

○大きくは、人類のために貢献すること。小さくは、自分の思ったこと、考えたことなどを実行し、自分自身の存在を知ること。
(大阪・登美丘高・山中豊和)

【質問】⑨「最近、中・高校生の自殺が相ついでいますが、このことについてどう考えますか」
○彼らをたいへんあわれに思います。自分自身の尊い命を絶つなんて……。その人を「死」にまで追いやったのは、周りの環境だと思います。苦しんでいてもどうすることもできない。そんな状態なら、死を考えても当然のように思われます。
(和歌山・伊都高・真伯仁美)

○意志が弱い人がそうするのだと思ふ。もう少し自分にきびしくなることがたいせつであると思ふ。
(兵庫・日本学園高・渋谷尚子)



屈指の名門高校三年・A子さん(17歳)の場合。

「ある日、まったく突然のことで、一文字の遺書らしいものもなく、自殺の原因はこれだ」と思いあたる点は、ぜんぜんありません」

とお母さん。「しつかりもので、やる気ぞろいの公立高校生のなかでも、ずばぬけて頭がよかったあの子が、どうして……と、まったく理解に苦しむ」と先生。「成績は抜群だし、美しすぎるので、同性として反感を抱きながらも、一月も二月もおいていたA子ちゃん」が、自殺——なんて、ゆめにも考えられなかった」と友だち。「道であえば、だれにでも同

じように、笑顔でかならずあいさつするいまだき珍しい礼儀正しい子だったのに」と近所の人。

ただ、A子さんの場合、その後、「こういつたことの積みかさなりが、結局、死を選んだのだろう」と推察できる内容の書かれた「日記」が発見され、死への軌跡を知る一つの手がかりとなつてはいる。以下は、A子さんが新しい年を迎えたところから、死の直前の九月まで書きつづつた日記の一部である。

一月〇日

新年おめでとう。私の日記ちゃん。ことしも、一年間どうぞ、よろしく……。私も十七歳。高二から高三への大事な年。がんばるわ。

一月〇日

U先生のきびしい話。「高二はすでに、受験競争の中盤戦。勉強の仕方をもう一度検討して、がんばることだ。」

三月〇日

二年最後の期末テストを終えて、家に帰ってみたら、東京のAさんからの手紙がきていた。待ちに待っていた手紙だけに、私はむさぼるように、その手紙を読んだ。大学も三年になったし、家からの仕送りを少しでも減らしたいため、アルバイトを始めた——と書いてあった。

四月〇日

いよいよ高三。私の運命を左右する大事な学年。一日たりとも忘れてなどいられない。

Aさんのアルバイトの相手は、私と同じ高三の女の子、しかも、志望校も同じとあっては、いろんな意味で心おだやかでない。負けるものか。がんばらなくちゃあ——である。

六月〇日

中間テストの成績発表。私

七月〇日

Aさんから電話。名古屋にかえってきたから、あした会わないか——という。もちろん、オーケー。なぜ、こうも心はずむのだろう。

七月〇日

Aさんと、サカエチカの喫茶店で会う。何か月ぶりかしら。それなのに言葉があまり出ない。いいたいことはいっぱいあるのに、言葉にしてしまうと、大事な要素がみんな抜けてしまふようで、ついつい沈黙になりがち。それでいい。会うだけでいい。会って顔を見合わせるだけで、言葉以上のものが通うよう

七月〇日

Aさん、突しよ、東京にかえる——と、駅から電話。いったい、何があったというのだろう。

九月〇日

きょうの私は、ちょっとどうかしていたようだ。土曜日だったので、あちらから、こちらから、「ボウリングに行かない」「映画

17歳の生命を考る特集 自殺

一流大学突破の単語力が八、〇〇〇語とすると、これらの単語学習に短時間でしかも能率的なテープ学習ができれば、こんなありがたいことはない。この「英単語テープ」のカタログ請求は、——東京都文京区本郷一ノ四ノ四 (株) 語研 (K-6係)



それは、テープは効果的だ。いったんスイッチをいれると、音は文字と違って、いやおうなく耳にとびこんでくる。したがって、これを何回くりかえすことによつて、しぜん記憶が定着する。

○自殺するだけの勇気を買う。(静岡・池新田高・松井 一) ○はつきりいつてひきよだたと思う。「死ぬ」ということ、つまり自殺は、問題自体から逃げて、問題がなくなるわけではない。周りの者にも迷惑をかける。(広島・三原高・稲葉 誠) ○あまりにも思い切りがよすぎると思う。また、すごく悲観的になつていたのだと思う。周りに、彼らの心を動かし、勇気づけるものがなかったことが悲劇的だし、周囲にも責任がある。(富山・清川高・寺崎淳子) ○自殺するには勇気が必要であるように思われる。でも、その苦しみを乗り越え、自分の力によって立派な人生をおくる方が、自殺することよりむしろかしいことだと思ふ。だから、自殺する人は「人間の生」というものと真剣に取り組んでいない人だと思ふ。自殺によつて、家族や友人に涙を流させ、悲しみをふやすだけの弱々しい力しかもつていない。その人だけの苦しみの逃避であり、まったく無意味なことだと思ふ。(群馬・高崎工高・根岸 章) ○自殺したあとになつて、こんなばかばかしいことで死んだのかと思われると、思いつめて死んだことが残念な結果になるので、死ぬより、やりたいことをやり、死から逃れるべきだ。(福島・相馬高・浜野義弘) ○中高生のうち自殺するなんて絶対に反対です。どんな理由があるにしろ、生きる勇気を持つべきだと思います。それでも自殺したいなら、勇気を持って生きてください。

に行こうよ」とさそわれたのに、「ヒマがな
いのよ」と、もっともらしい言葉を連発して
ことわり続けたんだもの。「進学組は、だれ
だって忙しいよ。きみも忙しいのは結構だ
が、そういう人に限って、むだな時間の使い
方をするもんさ。本当に時間を自分のものに
すれば、ちよつとぐらい余暇を楽しむ時間は
生まれるよ。勉強、勉強と、時間に振りまわ
されっぱなしは、いやだなあ」といったT君
の言葉に私はハツとなった。そういえば、私
たちは、朝から深夜まで、大学、大学と、勉
強ばかりやるように仕向けられている。

九月〇日

カバンのなかに、いつ入れたのか、T君か
らのレターがはいっていた。「忘れようと思
えば思うほど、忘れられない。大学なんて、
もううからなくてもいい」などと、激しい言
葉が並べてあった。私はそのレターをズタズ
タに裂いて、ちりかごに捨てた。なぜ、どう
して……。私は、私の好きな詩人・坂本明子
の「雪崩の楽章」の一節を、T君に送った。
残酷だと思ったが、いまは、それが一番いい

あなたの魂があらわれると
本当のあなたでなくなることを
知ってください

九月〇日

母がとつぜん、急病。入院することになっ
た。母のいないわが家は、火の消えたように
さびしい。

九月〇日

病院へ母の下着を持っていこうとして、母
のタンスのすみに、思いがけないものを見つ
けた。Aさんからの二通の速達。「ぼくの学
友が学園騒動の疑いで当局に追われている。
その彼の行方を追っている刑事が、住所をき
きにきてうるさいので、しばらく住所をかえ
る」そんなことが書いてあった。なぜ、母は
この手紙を私に見せてくれなかったのだろ
う。母すらも信じられないのか……。

九月〇日

きょうは朝からずつとイヤなことばかりだ
った。調子合わせ、ごまかし合い。どうして
みんな、自分のなかに、あんなにたくさんの
ウソを飼っているのだろう。



る。先生に注意された。あんなに好きだった
国語もきらい。まして数学なんか、本を開く
のもいや。日記を書くのもいや。

九月〇日

何のために生きているのか、わからない。
もう、誰も信じられない
愛が むなし
死にたい、なぜだか、一
私にはわからないが
でも、負けたくない、苦しみに
強く 生きたい

死の直前の七日間ほど、日記はまったくの
空白。ただの一文書も書かれていない。そし
て、「お母さん お母さん」の呼びかけを最
後に、この未完成日記は、多くの余白を残し
たまま終わっている。
「この残った部分には、もう永遠にあの子の
文字は書かれないのだと思うと、たまらない
のです。なることなら、私がかわってあげた
かったのに。もう半年以上もたったのに、あ
の子がいるように思えて、あの子の部屋をそ
つとのぞくのが日課なのです」と、A子さん
のお母さんは目がしらを押しさえた。

(文・名古屋タイムズ 小野田和美)

高生による再録 自殺

名古屋市市立菊里高校(現に自殺が出てい
る)文化祭で開かれた二年生Cクラスの「自殺
に関するシンポジウム」の様相を再録してみ
る。

男子生徒 僕は、自殺そのものを否定しない。
なぜなら、もっともらしく否定する理由などな
いからだ。しかし、自殺には、そこにいたるま
での必然性と、結果的にはそれを肯定する思想
が不可欠だが、実際にはそれがわからないから、なん
となく自殺するというのには反対だ。

男子 僕もその説に賛成だ。というのは、自
殺を否定するということは、あまりにも一般的
で、優等生すぎるのではないか。人は死んでし
まってはもともともなくなるといふけれども、
死ねばすべてが終わるのだ。人は何のために生
きるのか――、死の完成のためである。

女子 人生は不可解なものだ。だから、私は
生きられるだけ生きて、可能な限りその本質を
少しでも多く知ろうと思う。また今までに自殺
へまで自分を追いつめて考えたことはない。
男子 自殺した友をぼうとくするつもりはま
ったくないが、自殺は自分勝手であり、真の勇

女子 人間は、どんなに死にたいと思っても
なときがあっても、それに耐えて、冷静にこれ
を客観視し生き抜くべきではないか。
女子 私、私も、正直いって、自殺を考えたこと
はあるが、実行しようという気はまったく起き
なかった。やはり自殺は、現代社会および自分
からの逃避行為だと思ふ。

女子 人間は生きたいという本能を持つのが
自然なのだから、自殺がはやっている現代は、不
自然な世の中ということになる。
自殺肯定論や否定論が激しく交錯、参観して
いた先生たちは、ハラハラ、ヒヤヒヤ、一喜一
憂の連続だった。最後に男子生徒が標語をもじ
って、「やめなさい、自分のいのちをたつなんて」
「天国に行きたいのなら、いま生きろ」「お前
さん、くじけちゃだめよ、がんばれよ」とやっ
て、場内のふん囲気をいっぺんにやわらせた。

現代に生きる
私たちに
その心構えを
作ってくれる書。

忘れられぬ 名言

全国学校図書館
協議会選定図書

新書判 三〇〇円

旺文社社長
赤尾好夫著

数知れないほど多くの書物をひもどい
た著者が、折にふれ励まされ、慰めら
れ、心の支えとなつた名言を集録し、
解説を加えた好評の書。数十冊の書物
のエッセンスの結集。単に名言を理解
するばかりでなく、英語的常識の素地
歴史的・文学的素養も身につく。

東京・新宿・横寺町 旺文社